



## 絵本作家 三枝三七子さんから水俣を学ぶ

本日28日(火)は、絵本作家の三枝三七子さんをお招きして、5年生が水俣について学びました。三枝さんは、2011年に出版された「みなまたの木」では、日本初の公害というテーマを子供の本の世界に持ち込まれました。三枝さんは、これまで熊本に何度も足を運ばれて、たくさんの子供たちに水俣のことを知ってもらおうと啓発活動を行っておられます。

5年生は、7月5日(火)に「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で水俣に見学旅行に行く予定です。事前学習で総合的な学習の時間に、水俣の公害の原因や水俣病に関係する内容を一人一人が詳しく調べ課題意識をもっています。そういうときにタイムリーな講演となりました。

三枝さんの水俣との出会いは、「知らなかったことを知らない」ことから始まったそうです。水俣病を知らない大人たちが増えたらいけないという思いを強くし、絵本を書き始められました。その中で、原田正純医師と出会い、会社の想像力のなさ、人間の心の想像力のなさが水俣病を引き起こしたことを教えられたそうです。

また、差別と区別の違いについてもふれられ、差別はその人らしさを迫害して、生きる権利を認めない、決して許されないことだと毅然と話されました。さらに過去の歴史から何を学ぶべきなのか?それは「知る力」と「想像力」と言われ、「過去の負の歴史からしか二度と起こってはならないことは、学べない。」とまとめられました。

子供たちの感想交流の中では、「帯西イエローの『ともに生きる心』を感じました。わけは、差別は絶対にいけない。自分一人のために誰かを犠牲にするのはずるいと思ったからです。水俣のことを正しく詳しく覚えていきたいです。」「帯西ブルーの『命を感じる心』を感じました。わけは、このようなことが起きたら差別はいけないと思うけど、実際にその場にいたら差別するかもしれません。でも夢を奪われて悲しい思いをする人がいるのに、差別までしてしまったらもっと悲しい思いをするので、苦しめたくないなと思いました。」とそれぞれが自分の言葉で、今回の学びについて振り返っていました。

最後に、子供たちは「エール」という今月の歌をお礼の思いを込めて歌いました。その歌詞に「嬉しいこと楽しいことたくさんの素敵な気持ち。友達がい家族がい、当たり前なこと、そんな思い思い出して」とあります。水俣病はそんな当たり前の日常を引き裂いてしまった悲惨な出来事です。5年生の合唱を聴かれて、三枝さんは涙ぐまれて、「素晴らしい子供たちの学びの姿に感動しました。また呼んでください。今日はありがとうございました。」と逆に感謝されて帰路につかれました。

水俣病はまだ終わっていません。ぜひ、今回の体験を水俣学習、さらにその先にある自分たちの生活に活かして欲しいと思います。

